

PARAZINE

2014 SUMMER

『パラ人』とは
「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015」に向けて
ほぼ季刊で発行されている「半」公式出版物です。
吉岡洋（パラ集長）と学生等有志（パラ人たち）によって、自主的に活動が行われています。



根拠なき想像、信じる力

『パラ人』第2号をお届けする。カウンターは「002」、3桁である。スタッフの学生たち（『パラ人』たち）に聞いてみると、2015年に「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭」が終了した後も何らかの形でこの『パラ人』は続く、という気持ちでそうしたのでそうだ。3桁ということは、少なくとも100号まで出すということである。季刊で年4回だから、100号が出るのは25年後の2039年、学生たちがいまのぼくの年齢にかなり近づいている未来である。

若者らしい夢みたいな話だと笑う人もいるかもしれないが、こういう根拠のない想像が、ぼくはわりと好きだ。というより、こういうことを考えていないとやってられないという気分がある。いまの世界は、大学でもビジネスでも政治でも、未来を考えたときの時間スケールがとても小さい。25年後のような近未来ですら、計算上はいろいろとシミュレーションができて、実感として捉えようとする人は少ない。ましてや50年後、100年後に日本や世界がどうなっているのか、自分の問題として思い描き、本気で受けとめる態度を軽んじるようになった。皮肉なことだが、コンピュータが可能にした数値的に精密な未来予測が、未来に対する活き活きとした想像力の働きを阻んでいるという面もある。

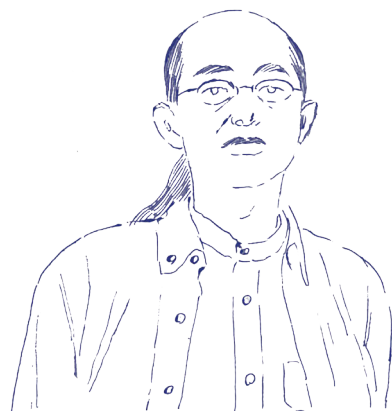
確かに、数字は一見確実な「根拠」であるように見える。未来に関して何かを主張しようとするとき必ず「根拠を示せ」と言われるが、そのときには数字を示すのがいちばん効果的である。数字を見ると現代人の多くは安心する。けれども数値的に予測される未来というのは、現在想定可能な要因だけをもとに計算されたものだ。現実には、「想定外」のことが起こる。未来は、それが遠いものであればあるほど、予測不能な要因や出来事の彼方にあつて、よく見えない。だから、根拠がなくても想像し、信じることは重要なのである。本当に活き活きと思い描かれた未来は、たとえ数値的な予測が立たなくても、人は案外実現してしまうものだからである（この主張にも根拠はないのだけれど）。

芸術とはある意味で、数値的根拠なしに未来を活き活きと想像する試みであると言える。だから芸術なんて「若者らしい夢みたいな話」で、せいぜい厳しい現実からの束の間の息抜きだ、程度に思っている人もいるかもしれない。けれど芸術家たちは必ずしも若者ではなく、想像だからといって必ずしも気楽なわけではない。2011年の夏、ぼくは横浜でポーランド出身の美術家クシシュトフ・ヴォディチコを招いたワークショップ「アートと戦争」に参加したが、そのとき彼の提示したテーマは「戦争の廃

絶」であった。「前の戦争と次の戦争の間に、ポーランドがある」という言葉をかれから聞いた。ポーランドだけでなく、ぼくたちが「平和」と呼んでいるものは、たんに戦争の休止状態のことなのだろうか？

2013年に亡くなった美術家の嶋本昭三は、新西宮ヨットハーバーを借りてピン投げによる作品制作を100年かけて行う「平和の証」というプロジェクトを行った。そこでピン投げによる制作を100年続けることができれば、少なくともその100年間には戦争はなかった、ということが証明されるからだという。重要なのは「100」という数字ではない。戦争と戦争との間にたまたま生じる休止状態としての「平和」ではない真の平和、永遠の平和を真剣に思い描こうとする試みが問題なのである。

現代人の多くは「自分は頭がいいと思われる」という強迫観念にとらわれているので、自分はあたかも何も信じないかのように、あらゆる信念に対して冷笑的な態度をとるように、刷り込まれている。数値的データを前にしたときだけ真剣な顔をするのが「知的」な態度であるかのように振るまう。でもこんなの、本当の意味で頭がいいわけでも知的であるわけでもない。そのことをハッキリ分らせてくれるのが、「パラソフィア」としての芸術なのだと思う。



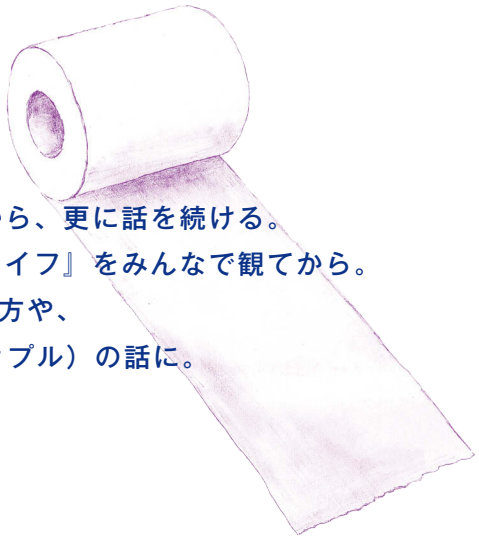
吉岡洋（よしおか・ひろし）

京都大学教授（美学・芸術学）、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015プロフェッショナルアドバイザーボードメンバー。批評誌『Diatxt.』（京都芸術センター、2000-03）編集長、京都ビエンナーレ2003総合ディレクター、岐阜おおがきビエンナーレ2006総合ディレクターを務める。世界メディア芸術コンベンション（ICOMAG）2011-13座長。

とりいそぎ、幸せ。

「人生はトイレットペーパー」。

そんな言葉で締めくくられた、前回の『バラ人』座談会から、更に話を続ける。
出発点は、幸福について。ひとまず、映画『ワンダフルライフ』をみんなで観てから。
いつものように会話は逸れて、いつの間にか iPod の使い方や、「リクラブ」(就活、リクルートをきっかけに成就するカップル)の話に。
けれど、どこからだって幸せは見えるはず。



2014年4月4日に刊行された、本誌の前号。半年間にも及ぶ編集期間の後に発表された、苦悩の001号。PARASOPHIA ホームページにてPDFも配布中。

ワンダフルライフ
すばらしい人生を考える

吉岡『バラ人』001号を読んでいただいた方はご存じのように、この座談会は「PARASOPHIA」ってそもそも何?という話し合いから始まりました。来年の「京都国際現代芸術祭」の名前である“PARASOPHIA”というコンセプトをめぐる議論です。それを、私たちはどう理解したらいいのか、自分たちの生活や経験の文脈ではどのように考えることができるのか、という話し合いからスタートしました。

さて、今回は第2号ということなのだけど、2号以降は雑誌のように毎回何か「キャッチー」なテーマを設定して話していこうという案も最初あった。けれどもその後の話の中で、売ることが目的の出版物ではないのに「はい、今回はいま話題のこれです」みたいなテーマ設定は不自然だという意見も出てきた。それよりも対話を続けていこう、と。つまりこの座談会は来年の春までずーっと継続しているみたいに、前回の終わりで話題になったことから次を始めてはどうか?という意見があった。ぼくは、それがいいなと思って採用しました。

まるで延々と雑談をしているようにも思えるけど、大げさにいえばこういうのはある意味、「哲学」のはじまりでもあります。古代ギリシアの、プラトンの対話篇。たとえば「愛(エロース)とは何か?」ということについて延々といろんな人が話をする「饗宴」みたいな本があるでしょ。プラトンの対話篇とぼくらがいまやってることの大きな違いは、彼らのご馳走食べてお酒飲んで話し合ってたけど、**ぼくらはトロピカーナ飲みながら**やるという点です(笑)。

さて、『バラ人』001号の座談会の終わりで話題になったのは何かというと、「幸福」という問題だった。ぼくが「リア充」はネガティブな考え方だと言ったら何人かが反応して、それではどうしてうらやましいと思うしまうのか?という話になった。それでぼくは「リア充は幸せではない」というエッセイ(chez-nous.typepad.jp/tanukinohirune/2014/04)を書きましたが、それでは幸福とはいいたい何なのか?自分の人生で幸福なときというのはどういうときか?そのことから、是枝裕和という映画監督が撮った『ワンダフルライフ』という15年くらい前の映画が話題になったわけです。

この映画は、亡くなった人があの世に行く前にある施設に1週間とどまって、自分の人生の中で

最も大切な瞬間をひとつ選び出し、それをその施設で働くスタッフが映画の場面として作って、その幸福だったときの気持ちを思い出した瞬間に成仏するというような話です。どの瞬間がいちばん幸せだったか決められない人も出てくる。どうしても決められない人はその建物で働くことになる、というような設定。それでこの映画をみんなで観て、それを「幸福」についての議論の出発点にしようということになった。

優れた作品だと思うけど、考えると奇妙な設定だよな。あの建物で働いてる人はもう死んでるのだから、この世の迷いと超えてるような立場なのに、しっかり色恋沙汰もある。まあ、ないと映画として面白くないけど。それでぼくが思ったのは、あれは死後の世界という設定だけど、実はあの場所こそが「この世」なのではないかと。それで、ひとつみんなに聞きたいのは、もし自分があの建物を訪れる死者のひとりて、人生のいちばん幸福な瞬間を決めてその気持ちとともに天国に行きたいか、それとも決められなくて迷ったままの方を選ぶか?ぼく自身は自分なら迷ったままの方を選びそうな気がする。

高橋 言ってみればあそこで働いている人って不老不死ですもんね。

吉岡 食べるもんとかどうしてるんやろう(笑)とか思うんだけど。

浅見 突っ込みどころを言い出したら、止まらない映画だったじゃないですか。なので、そこを気にすると、感情移入できなかったなど。あそこに来た人は映画を撮る撮らない、という選択の自由が最初から実は無かったように思うんです。ぼくがいちばん気になってたのは、リングがふたつ繋がった施設のマークが頻繁に出てきたじゃないですか。あれ新興宗教の匂いがするなって(笑)。そして、オウム真理教でいうと、大切な瞬間の映画が撮れたら、「ステージ」があがる。みたいな。そういうことなのかとか勝手に考えてもいました。あのマークなんだっただろう。

吉岡 あのマーク、確かに気持ち悪いな。全体としてはなんか役所っぽい雰囲気なのね。

上村 あと思ったんですけど、あそこで働いてたら奥さんより先に死んだとき、奥さんとか、昔の恋人だった人に、もう一度会えるんだなあとか思ったら働くかなあと。

吉岡 確かに突っ込み出したらキリがないやけど、一週間に死者は20人ぐらいいしか来ないわけじゃない。ということは、ああいうセンターがいっぱいあって、誰をどのセンターに振り分けるとか決める本部みたいな人がどっかにあるわけ。

福が「到」るようにという願いを込め、同じ発音をする「倒」にならって、倒して貼る風習があるらしい。近くの中華料理屋では、「福が降ってくるように逆さにして」って聞いたけど。



シネマ・パラシュート



no. 2

ワンダフルライフ × 空白を満たしなさい

生と死の境目という設定の中で我々に「幸福」の意味を問うふたつの作品。
是枝裕和の映画『ワンダフルライフ』と
平野啓一郎の小説『空白を満たしなさい』の
「永遠が、一瞬と触れ合う」場面を紹介したい。

「幸福」というとすぐ思い浮かぶ映画は是枝裕和監督の『ワンダフルライフ』であったが、幸福をテーマにした第2号の記事のためにもう1本探してみることにした。何日間ずっと考えても何も思いつかなかった。映画マニアのM先輩に偶然出会い、この問題を相談した。2人が並んで座り思い出したのは、山田洋次監督の「幸福の黄色いハンカチ」、小津安二郎監督の映画、そしてなぜか2人が同時に思い出したロベルト・ベニーニの『ライフ・イズ・ビューティフル』など。どうしても「家族団圓」辺りの話になった。
M先輩と私はいつの間にか、なぜ「幸福」といえばこれだといえるような映画を思い浮かべることはできないのか、その理由を探しはじめていた。暴力の映画なら多い。ホラーも、寂しさも、恋も、人類滅亡の映画さえもシナリオ別に言えそうだった。幸福の映画なら幸福を描いているか、見る人に幸福を感じさせる作品を選ぼうと思っていた。暴力映画には殴り、殴られ、傷つく場面が出る。恋の映画には愛し合う関係の人々が、ホラー映画には恐怖を感じさせる対象が出る。幸福の映画にはどんなシーンが必要なのか……。幸福というのは1本の映画に盛り込むにはあまりにも大きい概念なんだろう。どんなに幸福に近い感情を描いている作品を選んでも、幸福の映画ではなかった。「幸福」という言葉が入ったどんな作品も我々に幸福を教えてはくれないように、一作で「幸福」を論ずることは盲人が像を評することと同様な気がした。

我々はいつ/どうやって幸福を幸福であると(であったと)感じるのか?『ワンダフルライフ』の死者たちはあの世へと旅立つまでの一週間、リンボや煉獄ともいえるような場所に泊まり、そこのスタッフに「あなたのいちばん大切な思い出をひとつだけ選んでください」と言われる。そしてそのひとつのシーンをスタッフと一緒に撮影し、映画に再現したらその記憶だけを胸にあの世へと旅立つことができる。この映画はその一週間の描いたドキュメンタリーのような作品である。

「なぜひとつだけ?複数ダメ?選びたくないかない、それってどうせ私の脳が美化した偽りの記憶じゃないか」などのいろんな思いと共に、観客ははたして自分の人生のいちばん大切な瞬間はいつだったのか?2時間の間ずっと考えざるを得ない。映画の中の死者たちのように、幸せな気分になることも、人生を振り返ることすら辛くなることも、なす術を知らなくなることもあるだろう。死後のある特定の場所で、ある特定の期間内に自分のいちばん幸せな瞬間を選んで映像に収めるというこのような創的/極限の設定は、日常では考え出せない問いと答えを我々に求める。思考のある境界まで追い詰める、我々が映画と芸術作品に恋せざるを得ない理由でもある。

もうひとつの映画が見当たらないまま過ごしている間、生と死の境界線の上で幸福とは何か、幸福に向かい合う人間の姿勢

尹志慧(ゆん・じへ)

同志社大学大学院(美学芸術学)在学中。
バラ人及び、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015の学生スタッフ。

2020wonderkiddy@gmail.com



とはどんなものであるのか、もう一度考えてみるきっかけになった小説を思い出した。平野啓一郎の『空白を満たしなさい』だった。『ワンダフルライフ』がああの世に旅立つ前の人間に迫ってくる生と幸福の質問であれば、『空白を満たしなさい』で同じ質問は、あの世からいきなり3年ぶりに生き返ってきた男、徹生に投げられる。

徹生に与えられた時空間も『ワンダフルライフ』のそこほどに密度が高い。なぜ生き返ったのかは分からない。気が付いたら生身の自分が3年後のこの世にいる。いきなり生じた社会現象だそう。しかし、僕(徹生)は自殺したことになっている。僕は決してそんな人間じゃない。そうじゃないと何回も訴えてみても、周りの人に残した僕と3年という空白は大きすぎる。僕は死ぬ前「幸福の絶頂」にいた。いつも笑顔の妻と生まれたばかりの息子、自分が開発した商品も成功を収め始めていた。若干無理はあったが、ローンを組んでどうにか手にした家……。自殺のはずがない。僕は「あの男」に殺されたに違いない。微かな生前の記憶と証拠を集めながら、幸福の絶頂と自殺の間の空白、大切な人々との3年という空白を埋めようとする徹生のものがききしみが涙ぐましい作品だ。サスペンス的展開で手を離せないほどページを捲らせる速度の上でも、徹生は自分の幸福がなぜ自殺で終わってしまったのか絶え間なく考え続ける。

是枝監督が投げた、ただひとつの質問が2時間に渡って観客の記憶の中でゆっくりとその波紋を広げていくと言うならば、作家・平野は45回(45章から成っている)に渡ってあなたがここに生き(返)っている理由を聞く。両方とも、ずっと向き合うことが少しし作品でもあった。2時間の上映の間、そして45章を読んでいる間、ふたつの作品は生と幸福の質問から目を逸らす隙をくれなかった。答えを知らないから、あるいは、知っているがあえて避けてきたとても根源的質問の前で、「永遠が、一瞬と触れ合う」という『空白を満たしなさい』の最後の言葉を「幸福」という単語の前に修飾語として付けることしかできないことを自白したい。

この世からあの世へと旅立つ人、あの世からこの世に生き返った人を通して幸福と生の意味という根源的質問を投げるこのふたつの作品を読者の皆様に薦めたい。

『ワンダフルライフ』
是枝裕和

1998年公開

kore-eda.com/w-life/

『空白を満たしなさい』
平野啓一郎

2012年発行

1999年に公開された、是枝裕和監督による2作目の映画。設定にいちいちツッコミを入れず、物語を受け止めよう。エンドロールの間には、きっと人生を振り返らずにはられない、そんな映画。

				
名称	カオニミエール胃腸薬		ワガハイハネコデ R	
	チャーハンではない。ポテトサラダだ。		路地裏の向こうの方にみえるのは猫です。	
用法・用量	寂しいとき、友達に一食作ってもらってください。		野良猫の散歩について行ってください。	
注意	味は気にしないこと。良薬は口に……。		地図は厳禁。迷子になりましよう。	
				
名称	ワカガエリン細粒			
	母が海で貝を拾って遊んでいる。			
用法・用量	子供のように遊ぶ母を眺めてください。			
注意	温かく見守りましよう。			
				
名称	ナカヨ C こどもシロップ		生誕丸糖衣錠	
	子供が仲良く手を繋いでいる。		自分の誕生日にケーキを食べる。	
用法・用量	一日一回、大切な人と手を繋いでください。		一年に一回の誕生日を盛大に祝ってもらってください。	
注意	ざりげなく、が肝心です。		ロウソクを消すときは呼吸困難にならないよう。	
				
名称	HAND-mAID 頭部絆創膏		カットバセー	
	手作りの帽子が完成した。		野球場でビールを飲む。	
用法・用量	一日一時間、コソコソと編んでください。		1 シーズンに一回以上、試合を観戦しながら服用してください。	
注意	不器用な方は使用前に親しい方に相談してください。		勝敗に関しては一切責任を負いません。	
				
名称	熱上げシート		ダラダラ睡眠薬	
	友達のライブでフィーバー。		布団の上に寝転ぶ。	
用法・用量	一晩中、友達と騒いでください。		金曜、または土曜の夜にアラームをセットせずに寝てください。	
注意	15 才未満の方は使用しないでください。		日曜夜の服用はお控えください。	

「パラジン（parazine）」とは、実はある鎮痛剤の名前でもありますが、
 ここで、「幸せ」を感じたいときに効くお薬を処方してみました。

パラ人薬局の「幸せ」処方箋

担当薬剤師・橋本柚香（はしもと・ゆか）

◆ **野海** あれを見てて、いちばん幸せなときをひとつ選び取るというよりは、むしろ他のたくさんの幸せなときを捨てていくのだという感じがしました。

高橋 私は、幸せなときをひとつ選べと言われて選ばねばならないことに対する登場人物たちの抵抗について共感するんじゃないかなと思いました。絶対観た人は「自分だったら何選ぶかな」と必ず考えるのではないでしょうか。あの映画、結構退屈な時間もありますし。

尹 初めてこの映画を見たときは内容に感情移入して、私ならどんな記憶を選ぶだろうとずっと考えていたんです。今回考えていたのは、素晴らしい作品って、すべての話を盛り込んでいるわけじゃなくて、自らいろんな限界を設定して、その限界の中でいろんな工夫をするものだと思います。なんらかのイメージを映画に収めるために、設定の中からその答えを導き出すという。その、監督の質問の仕方と、幸福だった瞬間の選び方を見せるということが、今回思ったことです。つまり、是枝監督の質問と回答の設定によっては、幸福は瞬間じゃなかったかもしれないと思います。この設定は「瞬間」という形を導き出す設定で、ほかのプロットだったら違ったかもしれないですね。

上村 私はひとつ疑問に思ったのが、映画の冒頭で亡くなった人たちに説明をするときに、「いちばん幸せな瞬間を選んでください」じゃなくて、「いちばん大切な瞬間を選んでください」って言ったじゃないですか。私はそれこそ自分に置き換えてその瞬間を考えていたんですけど、映画を観ていたらいちばん大切な瞬間と言われた人たちは当たり前に幸せだった瞬間を選ぶようになっていたんですけど、私は大切な瞬間としてはまた別のことを思い浮かべていたんですね。ちょっといやだったけど、教訓的になったことを思い浮かべていたんですけど。一般的にそうなのかなと思って。

吉岡 幸福ではないけど大切な瞬間ってというのはあるよね。

上村 それがあったからいまの自分があるという。亡くなった人たちは大切な瞬間＝幸せな瞬間と解釈していたので、皆さんもそうだったのかなと。前提的に、幸福な瞬間を選ぶ映画だと思って観てたらそうですけど。大切な瞬間って言われたら幸せな瞬間を思い浮かべますか？

野海 私もそのふたつは違うだろうと思いましたね。

浅見 でも、あれは死んでるからじゃないですか？自分にとって大切な瞬間、いまの自分を形成してるターニングポイントがあっても、一線画して死んじゃったから、もっと素朴な、幸せなものに行きついてるんじゃないのかなと。

高橋 確かに映画の設定はその記憶だけをもって行くということでしたね。

上村 その記憶だけもっていくなら、幸せな瞬間がいい……？

吉岡 楽しくないけど大切な瞬間は確かにある。でもその記憶を永遠に持って行けと言われたら考えるよね。永遠に持っていくと宣言された時点で、大切な瞬間とは幸福な瞬間のことだと、暗に誘導されている。

石の匂い・お墓の匂い

尹 この問い方は、映画という媒体だったので、視覚的な瞬間やイメージという結果が出てきたんですけど、これがもし映画じゃないほかの芸術だったら、幸福ってイメージ化された形になってないかもしれないと思いましたね。

吉岡 映画的じゃない形というのは？

尹 単純な例としては、匂いとか。ある匂いを嗅いだら、そのときがよみがえる。あ、それも瞬間ですかね。

吉岡 匂いからある瞬間を思い出すということ？

尹 はい。モンゴルの友達からもらった小石があるんですが、モンゴルが懐かしくなったときにこの石を火にかけると、この場の匂いがまたするから持って行ってと言われました。一年後、火にかけてみたら、本当に瞬間移動をしたような気分でした。特定のシーンを思い出したわけではありませんでしたが、すべてがよみがえるような……。こうした匂いや、聴覚的なもの、あるいは触覚的なものなど。いろんな形で同じ問いに答えてみるのもできるのではないかと思いますね。主に視覚的な結果に慣れているけど。

吉岡 視覚的なものは映画やドラマの一場面みたいなものに結びつきやすいけど、いま指摘された匂いとか触覚というのは、ドラマなしでも成立するものだよな。ほくなんか、毎朝ドアを開けて家から出るとき外の匂い嗅くと、すごく幸福だと思う。「あ、生きてるな今日も」みたいな。家の中の匂いから外の匂いに移るときって、すごくいい。あんまり行きたくない仕事に向かう朝でも、その瞬間は好き。

尹 この映画は幸福を記憶に結び付けているんですけど、いまの先生の話は記憶じゃないですよな。

吉岡 記憶じゃない。永遠の現在。

尹 幸福って必ずしも記憶のレベルの話ではないということですか。

吉岡 何となく幸福感が起こってくるだけで、記憶ではない。それから、これは共感されないかもしれないけど、お線香の匂いとか。仏壇に供えるお線香ね。まあこれは、子供のときの記憶にちょっと関係あるのかもかもしれないけど。今年の1月に東京で発表した「BEACON 2014」という映像インスタレーション作品の展示場所を探していたとき、葬儀屋さんの会場が候補になって下見に行った瞬間に氣にいったのだけど、お線香の匂いのせいかもしれない。墓地も好きですね。自分の先祖のお墓参りでなくても、墓地の中にいるとすごく幸せになる。この中にお墓好きな人、いませんか？(笑)

お墓の間を歩いてたり、佇んできると、本当に気持ちが落ち着くんです。

野海 私も落ち着きます。なんか、埋まってる人がみんな偉い人だったような気持ちになるんですよ。それぞれにちゃんと意味がある人生だったんだ、っていうような。

吉岡 そうやね。墓標はいろいろあるでしょ。立派なもの質素なものもあるし、その違いはちょっと現世をひきずってはいるけど、でも墓石なん

だから基本的には同じじゃないですか。長生きして寿命を全うして死んだ人も、不幸な死に方をした人も、幼くして死んだ子も、時間が経っていったらだんだん同じになっていく。子供のときからお墓は好きなんやけど、子供のときは言えへんわけですよ、変なヤツって思われるから。その後いろんな人の本読んでたら、お墓が好きっていう人は時々いて安心した。哲学者にもいるし、漫画家の水木しげるさんも子供のときからお墓好きなのね。お墓の落ち着きが幸福の原型かな、ほくにとっては。

尹 その落ち着きって、死を喚起させられるとかとは別の落ち着きですか。

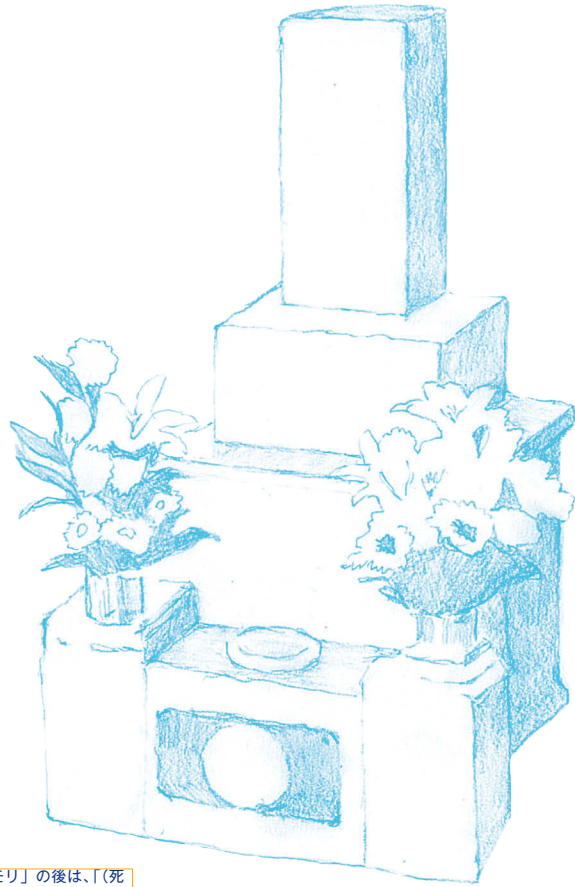
吉岡 うーん、お墓っていうのは「死」そのものじゃなくて、そこから時間が経っていくわけじゃない？人が亡くなった瞬間は悲しいかもしれんけど、時間が経って、だんだん落ち着きに変わるわけ。だからお墓に付んでいるとね、死んでる状態と生きてる状態っていうのが、実はそんなに変わらないんだあっていう実感がある。いまのように日常的な空間にいと、死はいま生きている状態と全然違ふみたいに感じるけど、墓地にいと生と死の距離があんまり感じられない。

尹 現代人って、自分が死ぬさためである、人間は死ぬさためであるということをお忘れているじゃないですか。でもその、お墓が好きな人って、普通の人以上に常にもう少し意識している人ってことなんじゃないか。

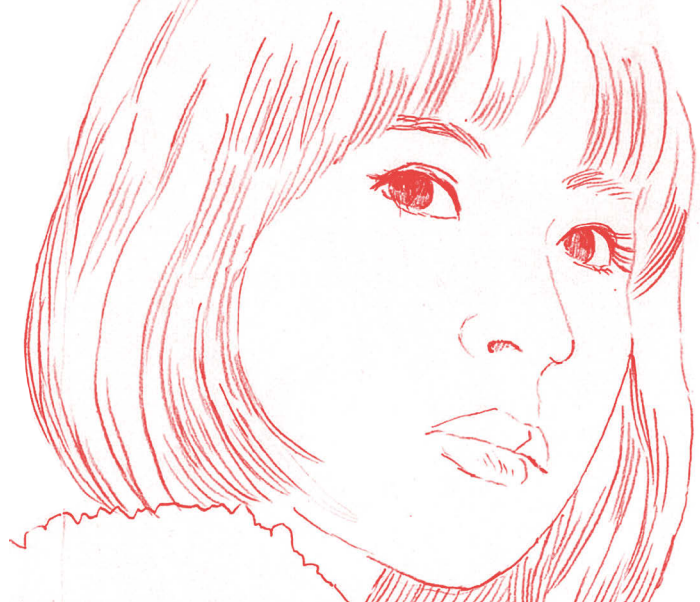
吉岡 意識してるのが偉いとは思わないんやけどね。確かに現代人とは違って、昔の人は死をもっと身近に感じてたと思う。ヨーロッパでも「メメント・モリ（死を忘れるな）」というのがあるけど、あれはそんな厳しい戒めとかじゃなくて、**もっと身近な言い草だったと思う**。昔は子供が生まれてもよく死ぬし、飢饉や伝染病もあるし、死というのはそんな非日常的なことではないですよ。死体や骸骨は結構友だち、というか。そういうのを見て現代人は、昔の人は人生の空しさや移ろいやすさを我々よりもちゃんと覚悟していたのだ、などとクソ真面目に尊敬したりするけど、ほくはそうじゃないと思う。昔の人が死のイメージに取り囲まれていたのは、やっぱり、ある意味幸福のためだったと思うんだよね。死を間近に感じながら、いまこの瞬間を生きるっていうほうが、幸福だったと思うんですよ。そんな教訓的な、お前いまは楽しいかもしれないけど人生には限りがあるんだぞ、っていうようなことだけではなかったと思う。戒めもあったかもしれないけど全部そうじゃないと思うんですよ。

音楽の幸福喚起力

高橋 話が結構速くに来てしまったというか。幸福の話をしていたはずなのに死の話になってしまいましたね。さっき話題になった、匂いとか、記憶が幸福だというとき、それってあの映画で描かれたような視覚的な幸福とは違って、全然人生の



ちなみに、「メメント・モリ」の後は、「(死を忘れるな、明日死ぬかもしれない) だからこそ、そのグラスを飲み干せ!」と続くニュアンスだったそうな。素敵だ。



◆ ピークではないじゃないですか。ごくありふれた日常というか。確かにそのときに、幸福に生きていたかというのはあんまり関係ないんだろうなっていう気もします。すごく憂鬱だったときの匂いとかでも、覚えていることを、何らかのきっかけで思い出すこと自体が幸福なんじゃないかなって、話を聞いてて思ったんですけど。

吉岡 思い出すこと自体が幸福。

高橋 思い出せることが、反復できることが。自分からは匂いって取り出すことができないじゃないですか。必ず向こうからやって来る。やって来たことによって戻れるというか、その出会えたことに対する喜びなんじゃないかなって思って。だから全然、その瞬間の幸福と質が違うんだろうなと思って。でもそっちのほうが私は好きかもしれないです。向こうから来る幸福のほうが。なんかすごく、選ばれている、というか。自分から選ぶと言うよりか、来てくれたほうが。言い方が悪いですけど気楽というものもあるし。

吉岡 世の中で言われるのはそれと逆で、幸福を求めて努力しなくてはいけない、待ってちゃだめなんだ、みたいなことが多いですね。

高橋 最近、「このままじゃ幸せになれないかもしれないんです」と人に言ったら、なんで幸せになんきゃいけないんですか、って言われたりもしんですけど、多分私自身そうやって言うことによって幸せに近づこうとしてるんだろうなと思ってうじうじしました。

浅見 匂いであったり、色んなものが感情を想起させるスイッチになってる、というような話をこの前友達としていたんです。音楽もそのひとつだと。それで、銀杏 BOYZ の峯田がこの前ミュージックビデオで長澤まさみと共演した話になって。共演というか出演してもらった。で、撮影が終わってすぐにレコード屋に走って、レコードを取りあえず 2、3 枚買って家に帰ったらしくて。で、この買ったレコード一生忘れないってラジオで言ってたんです。それはレコードの音とかじゃなくて、このレコードを買う 10 分前まで俺は長澤まさみと一緒にいたんだ、って。それを思い出させるために、このレコードはある、音楽ってそういうものだって言ってて。ああ、確かになんとなくわかるなと思って。

高橋 そのミュージックビデオを観ることによって思い出すのでは駄目だったということですかね。浅見 どうなのでしょう。何年後にタンスの整理をしていて、たまたま出てきたときにまた鮮明に思い出せる、みたいなことかもしれません。

野海 じゃあそれを聴くときって、「ああ、ちょっといま幸せな気持ちになろう」という意図をもって、流すんですね。

浅見 凹んでるときに、いまから長澤まさみモードみたいな感じとか、わかんないですけど……。

野海 そういうのがあんまり、私よくわからなくて。

吉岡 あのときの幸せな気持ちを、って意図して再生したときに、あれ？ ってたったらどうするのかな。あれ、こんなやつたっけ、みたいな。

浅見 幸せかどうかは別としてもやっぱり思い出

すんだろうなと思います。インタビューでよくある質問で「初めて買ったレコードはなんですか？」みたいな。実際そのことって結構覚えてたりすると思います。そういう音楽の中身じゃなくて、外側としてもってる強さを言いたいのだと思います。ちなみに吉岡先生が初めて買ったのは何なんですか？

吉岡 当ててみ。中 2 のときです。1972 年かな。

野海 山口百恵。

吉岡 まだです。山口百恵はまだギリギリ出てない。

浅見 藤圭子とかですか。

吉岡 そう！

一同 おおー（笑）。

吉岡 すごい直観力やな。

浅見 いますごいびっくりした……。

吉岡 実はまだ立ち直れてないのよ（笑）、ぼく、藤圭子の自殺から。あと何ヶ月かかかと思う。それはともかく、なんで 14 歳くらいのときに藤圭子好きになったかという、その頃ちょっと音楽的に進んだ中學生は洋楽を聴くんですよ、"J-POP" なんて価値感はまだないから。だからぼくはヘソ曲がりてわざと演歌を支持したということもあったのだけど、何よりも藤圭子という存在の魅力に圧倒された。幸福な子供時代を送った人ではないと思うけど、現実とはともかく、「不幸」は彼女の歌の世界の通奏低音でしょ。「ネオンの街」とか「夜の蝶」とか、そういう違う世界への憧れもあった。自分のものではない不幸を空想することが幸福だった、というか。だいたい学校は嫌いで特に中学時代は最悪だったんで、藤圭子は心の避難所でした。

ぼくの歳になるとよく子供の頃は幸せだったとか、若い頃に戻りたいと思う人もいるようなのだけど、ぼくは若い頃、とくに学校生活に良い思い出がないので、そういうのがぜんぜんいですね。みんなは子供時代に戻りたいと思いますか？ ぼくは、いまがいっぱいいいですね。大学生の頃も、確かにいまよりはヒマで気楽だったかもしれないけど、戻りたいとは思わない。どっかに戻って人生をやり直したいとも思いません。あの頃がいちばん良かったっていうような感じがなければ、やっぱりあの映画の中の人だったら選べないですね。「死んだ後のいまがいっぱい幸福です」と言うかもしれない。

高橋 それだったらたぶん、「向こう」には行けないですよ。

吉岡 天国に？ 行けない行けない。行きたくないだもん。

高橋 ずっと知覚し続けられるというか、生きているときと同じように次何が起きるか分からない時間が前にずっと残っていること。たぶん、そのことがいっぱい幸福なのかもしれないですよ。吉岡 「幸福学」とか、幸福に生きるにはどうしたらいいか、みたいな本とかテレビ番組とかあるでしょ。幸福になるために努力するとか、何かに気をつけるとか、ぼくはぜんぜん考えたことないな。「幸福」を目標にした時点で、結局それは「リア充」的幸福にすぎないように思えるし。

高橋 悩みがあったって幸せなときってありますよね。私は最近、どんな一日でも幸せなのかもしれないとあるときから思い始めました。どれだけ仕事とか勉強とかが進まなかったり、何もできなかったり、ひどいことがあっても、それはそれで一日が終わったからいいかなと。そう思い始めてから全然怖い夢を見なくなったし、すごく楽に寝れるようになって、これは逆に言えばすごく消極的というか、何か追い求める姿勢ではないのかもしれないですけど。でも、もしかしたらこれでもいいのかなって思ってます。

「脳」は幸福になれるのか？

尹 前からやっていることがあるんですが、例えば桜がきれいな理由はすぐ散ってしまうことを知っているからじゃないですか。私は 7 ～ 8 年ぐらい前、いつも同じ音楽ばかり聴いてることに気がつきました。好きなジャンルの音楽ばかり聴いてることに気がついて、iPod を購入して、自分が持ってる CD を全部入れたんです。それにプラス、いままであまり聴いてなかったジャンルの音楽、友達からオススメされたいろんな音楽を入れて、5 年前くらいから、いつも音楽をランダムプレイで聴いています、シャッフルで。だから、欲しい CD を買ってもそれをすぐ聴かずに一応入れといて、いつかするか分からない状態で、いつもランダム再生で聴いています。だから、自分が好きなあの曲は 5 年後にかかるかもしれないし、次にかかるかもしれないという状況の中にいつもいます。

吉岡 一生聴けないかもしれない（笑）。

尹 そうです。それで最近、12 年前カナダの中古の CD ショップで買った CD に入ってるある曲が、12 年ぶりにかかったんです！

吉岡 全部で何曲くらい入ってるの？

尹 2 万曲くらいかな。だから、曲がかかっているこの瞬間が終わったら、また会えるのかはわからないから、本当に大切な気持ちで、幸せだなんて思います。こんな条件を自らがかけたとしても、聴きたい曲を聴きたいときってあるじゃないですか？ でも、絶対操作せずに待ちます（笑）。だから、好きな曲がかかったときは、本当に幸せな気持ちで、歩いている間にかかったら、その場に立ち止まってしまう程に幸せ。うん、なんかストイックなんです（笑）。でもこんな瞬間を 1 回味わってからは、止められなくて……。

吉岡 好きな曲が、たまたまあんまり間を置かず 2 日後にかかったりしたら、何かあるんじゃないか！ って（笑）。

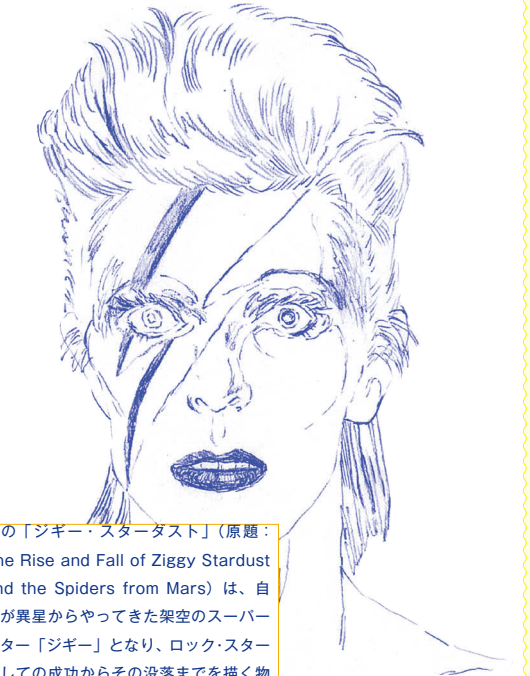
尹 そうなんです！ 最近ずっとデビッド・ボウイがかかってて、デビッド・ボウイと私、何かあるのかなって思ったりしてます。

野海 その流れた曲は絶対聴くんですか？ いま気分じゃないとか言って飛ばしたりとかはしない？

尹 1 回止めたりはするけど、それからまた聞く。我慢します。◆



160GB の容量で 4 万曲が入る iPod classic は、2009 年以後新しい世代は発売されてない。23,800 円（税別）



彼の「ジギー・スターダスト」(原題: The Rise and Fall of Ziggy Stardust and the Spiders from Mars) は、自らが異星からやってきた架空のスーパースター「ジギー」となり、ロック・スターとしての成功からその没落までを描く物語を、アルバムに収録された曲で構成している作品である。

北野圭介のパラソフィア



北野圭介 (きたの・けいすけ)

立命館大学教授。映像理論。2012 年 9 月から 2013 年 3 月までロンドン大学ゴールドスミスカレッジ客員研究員。著書に『映像論序説〈デジタル / アナログ〉を越えて』(人文書院、2009 年)、『制御と社会』(人文書院、2013 年) など。映像と表現文化の関係を軸に、技術、社会、実存の様態も視野に収めながら、理論的に考察する。

謀（はかりごと）の共犯者となれるかも！

僕が PARASOPHIA に多少なりともかかわることになったのは、まったくの偶然です。友人がブレイバントでレクチャーをしたのでいそいそと出かけたところ、酒宴にも誘われ、そこでスタッフの方々と知り合いになったという具合で。ご縁と云うのでしょうか、そうして、いつしか端っこで遊ばせてもらっている恰好になっています。

なんだか有象無象が蠢く類いのアートフェスティバルは、アーティストもオーガナイザーもビジターも軽やかで鮮やかで、まるでスクリーボール・コメディ映画のようです。見栄と失態、滑稽とグロテスク、衝突と抱擁が素早い速度で目の前を駆け抜けていく。もしそういう場の共犯者になれる可能性があるのなら、それを見逃してしまう理由はどこにもないでしょう。

もちろん、アートフェスティバルにだっていろいろあります。昨今、世界のあちこちで催されていて、とんでもない数になっています。職業柄、あっちこっちのものに足を運び、それなりに愉しんでもいるのですが、正直、興奮するものもしないものがある。個人的な趣味になってしまっていますが、怪しい企みやら無謀な賭け引きが渦巻いていて、目も眩むドキドキ感のある方が僕的には合っています。

謀（はかりごと）が仕掛けられ、訪れるものを容赦なく巻き込んでいく。あたかも別の生態系のなかへと引きずり込まれていくのような経験こそがぞくぞくするということでしょうか。いまの世の中、ぞくぞくする感覚に耽溺できるチャンスってなかなかない。テレビも新聞もお行儀よく整頓されているし、教員が言ってはいけないのかもしれませんが、大学キャンパスなんかでもどんどん小さきれいになってきている。巷間に溢れているイベントだって、同じ関心をもつよく似たような人たちが集まるようなものが多い。だから、若い人たちがぞくぞくする何かを探してインターネットにハマるのもわかる気がします。ただ、ネットは、指と目しか動かせないので、愉悦も限定的。それが、アートフェスティバルのなかにはこころもからだも丸ごと揺さぶられるものがあり、油断しているとどこかにもっていかれてしまうヤバイものまである。

そんな折に（どんな折だ?!）、この謎の名称、PARASOPHIA が視界に突如を浮上したわけです。しかも、ブレイバントが開催 2 年前から目白押しという、破天荒さで。謎めていること、この上ないでしょう。ぞくぞくするにもほどがあります。

椿昇のパラソフィア



椿昇（つばき・のぼる）

日本の現代美術家。京都造形芸術大学芸術学部美術工芸学科教授。1980年代から、美術と社会の関係、人間とテクノロジーやシステムの関係を開いた直す作品を発表し続け、日本や世界各地の人々と、過激で根源的な対話を続ける作風。

artotheque.jp/

私の想うパラソフィア

日本のファインアートはこのままでいいのだろうか？ その大きな疑問が私たちの心から消えたことはありません。世界でいちばん美術館好きな国民が、なぜ世界でいちばん作品を買わないのでしょう。しかしながら、江戸時代には美術と工芸の境界もありませんでしたし、誰もが浮世絵を買ったりして高いレベルの文化を楽しんでいました。私の実家にも何本もの掛け軸があり、床の間には季節に応じた作品が飾られていました。1点だけを所有するのではなく、複数の作品を楽しんでいたのです。

2006年にトロントで展示を手伝ってくれたKさんは、宇宙物理で落ちこぼれ哲学で落ちこぼれアートにたどり着いて画家になりました。カナダ人の奥さんと結婚してトロントの公園で絵を売って生きてゆくうちに人気が出て当時の年収400万。郊外の素敵な家に家族4人で住まれていて、最近ギャラリーが扱ってくれるようになったと嬉しそうに語っていました。

私はそのあと帰国して激しい疑問を持ちました。補助金や一部のコレクターに頼って生きている日本のアートって何なんだ？ アートを市民が消費しないのに芸大生だけがどんどん卒業していいのだろうか。それは学生達を見殺しにする詐欺なんじゃないか。その素朴な疑問に答えたいという強い想いが私のパラソフィアそのものです。アートは食べられないということを教育の現場にいる立場として放置したくないのです。

瀬戸内国際芸術祭 2013において、私は「醤+坂手プロジェクト」をディレクションしました。それは芸大生に未来を生きる場を提供するための嘘偽りの無い挑戦でした。そこでは多くの卒業生が活躍し、夏会期だけで15.2億円という大きな経済効果を生んだのです。それはアートが人生のサイドメニューでは無くなった瞬間でした。

今回のパラソフィアに向き合う私のミッションは、若いアーティストを支援するプログラムを京都の人々に広く知っていただき、そこに参加していただくために尽力することです。これこそアートは民主主義の根幹を成すと信じて疑わないパブリックアーティストとしてのTSUBAKI作品なのです。

科学。その科学が我々に何をしてくれたの？
科学ってネタバレみたい。
どう終わるのか全部言っちゃって
映画をめっちゃにさせる。
知りたくないものまで知らせるんだ。

by Nedward "Ned" Flanders, Jr.

じゃないかなって思います。そっちの方が面白いのになって。

浅見 中島らもがエッセイが何かで「めっちゃ悔しいけど抗鬱剤はめっちゃ効く」って書いていて。

吉岡 なんで「めっちゃ悔しい」のだろう？

浅見 薬みたいなもののせいで自分の感情がすごくコントロールされているのが悔しいと……。

吉岡 あんだけ酒飲んだのに？（笑）

浅見 確かにそうですね（笑）。でも、自分の中のアルコールと薬の線引きがあったのかもしれないです。エッセイでは、本当にうつ状態のときに抗鬱剤を飲んだらやっぱり効く、晴れやかになる。でも、こんな錠剤なんかで気持ちの浮き沈みが決まるはずが無いと思っても、やっぱり変わるって。

吉岡 そりゃあ変わるでしょ。

浅見 ドラッグは、脳内に直接くるじゃないですか。感情的な部分ではなくて、脳が直接幸せになる。脳科学の幸せてって、最終的にそういうところに行き着いてしまいうるんだって。でもなんか、それって全然楽しくない。

伊 きっかけが無いのに、原因が無いのになぜか幸せみたいな。

吉岡 酒でも薬でも、化学物質で気分が劇的に変わることに、幸福の本質が化学物質にあるということとはまったく違う。薬で楽になっても、だからといってそれは心が物質に負けたということにはならない。

不幸と幸福、そして「団結」

伊 あの今回、幸せの話をすることを友達にしたら、幸福だけでなく「不幸」の話も絶対してくれと。日本人は、自分は幸福じゃないと感じているのですよね。不幸だというわけじゃなくて。それは、イコールってわけじゃない？

吉岡 「不幸」は、昭和の概念じゃないかな。

伊 本当ですか？

吉岡 バブル以降、もしかしたら「不幸」は消滅したのではないかな。不幸は貧しく不自由な現在で、幸福は豊かで自由な未来。でも未来の豊かな幸福を夢見ることができる限りにおいて、本当はこの貧しい現在も幸福。幸福と不幸はそういうふうな鏡像関係にあって、それが成立していたのが昭和ではないかと思います。だから不幸は噛みしめることができたし、噛みしめるとどこか甘い味もした。それで藤圭子に憧れたのかもしれない。

それに対していまみたいに、貧困に陥ったり事業に失敗したりしてもそれは「自己責任」だと言われたら、もう幸福もなければ不幸もない。ミもフタもないし、噛みしめることなどできない。失敗が全部「自己責任」なんて、それは即「死ね」と言われてるのと同じだと思います。

幸せとか不幸が昭和の概念であると言っても、たぶんここで「昭和」に属してるのがほくだけ(笑)

わたしの幸福論

星新一「処刑」

「ようこそ地球さん」

新潮文庫

（なお、他多数の書籍にも収録）

子供の頃、死ぬのが怖かった。

親戚や友人の死という具体的な事例を知らなかったせいか、わたしは「死」の文字を何かの呪いのように恐れ、それと何の前触れもなく出会うことのないよう、国語辞典を引くことをできるだけ避けていた。自分がいつ、どうやったら死ぬのか、死んだらこの意識はどうになってしまうのか、それを誰も知らないことが恐ろしかったが、同時にこの恐怖とそれに伴う（不眠などの）障害について口にしてはいけないことも、わかっていた。死への恐怖は誰にも言えない最初の秘密になっていたのだ。大人になればそんなものは忘れられると信じて。一方で、フィクションの中の死は清潔で安全なものだと思っていたわたしは、推理小説なんかは平気で読めた。そこから図書館のSFの棚にスライドして出会ったのが、星新一のショート・ショート、「処刑」だった。

文明の進んだ未来では、人間が開発後引き上げた、乾いた星で死刑が執行される。銃殺刑でも

絞首刑でもなく、銀色の球体を用いて。それは大気中の水分を集めて水にする機械で、水を作るためのボタンを何度か押すと爆発し命を奪うようになっているが、何度目で作動するは誰にもわからない。死刑になった主人公は喉の渇きと死の恐怖を天秤にかけ、ボタンを押す度に苦悶するが、あることに気付き、この地獄から逃れることに成功する。

その「あること」こそが、わたしがいちばん知りたかった言葉だったために、この短編はわたしの「幸福論」となった。別にそれを知ったから死ぬのが怖くなくなったわけではなく、死の恐怖について別のしかたで考える方法がわかったのだ。現実の大人たちは誰も教えてくれそうになかったことを、現実からいちばん遠そうなSFが教えてくれた。ほかの誰かにとっての幸福論も、多分実用書の棚以外に埋まっているような気がする。

高橋奈々（たかはし・なな）

愚直な態度を取り戻せ

幸福はほくを見つけてくれるかな？

—石川コレクション | 岡山 | からの 10 作家

operacity.jp/ag/exh163/

youtube.com/watch?v=8cYCubol7a0

この前、友達がたまたまYouTubeで流していた、1歳11ヶ月のまだ幼いディオゴくん（Diogo Mello）が歌うBeatlesの『Don't Let Me Down』の動画。最初のシャウトだけで笑ってしまったって、もうずっと耳に残っている。屈託のなさなのか、小さな子どもの叫びは意味に関わらず、まるで核心に迫ってきているような切実さがある。東京・オペラシティアートギャラリーで行われていた展覧会「幸福はほくを見つけてくれるかな？」の入り口、ドイツ人の学生が歌詞の意味を知らずに日本の歌を歌う様子を写す、島袋道浩の作品『わけのわからないものをどうやってひきうけるか？』。出口の近くミルチャ・カントルの作品『僕は世界を救わないことにきめた』では、ほんの子どもが「僕は世界を救わないことに決めた!」と叫んでいるのを見ながら、そういえばディオゴくんはいま何歳になるのか考えていた。

コンセプチュアルな作品が並ぶ本展は、もちろん全てが幸福について語っているわけではない。けれど、「幸福はほくを見つけてくれるかな？」というタイトルは、フライヤーでそれを目にしたときから、「幸せ」について考えることをゆるやかに促され、展覧されている作品のなかに幸せを見つけよう、としてしまう。

そもそも、このタイトルは、出品作家であるベーター・フィッシュリ & ダヴィッド・ヴァイスの『無題（質問）』のなかのピースに付された、ひとつの質問だ。『この森、名前はなんているの？』『ぼくは魔女の尻に敷かれている？』ゆっくりと動きながら現れては消える多くの質問が浮かぶ空間。その中で路頭に迷ったようにおろおろと考え続けないといけない。その問いかけは子どもの思いつきのようであり、応えるのにはどうしても時間がかかる。

大人になる過程で、甘い考え・算段や、説得力のない言葉が、言えなくなるときがある。多くの人が年齢と比例して、身につけた理論・常識に則って、窮屈な発言を強いられる。それは、賢くなっている証のように社会には溶け込むけれど、不自然を鵜呑みすることじゃないか。

ディオゴくんが叫ぶ "Don't let me down!"（僕を悲しませないで!）の言葉に説得力を求めないように、たまには発せられた言葉の裏側を勘ぐらず、宙に浮いた言葉だけを見つめる。それはきっと、アートを、ひいては世界を眺めるのに重要な態度だ。

浅見旬（あさみ・じゅん）

no. 2

パラソフィア・ア・アヴィニョン / Parasophia à Avignon

女王たちの幸福

~~~~~

パリから南下し、夏のアヴィニョンは教皇庁へ。アートと〈場〉の関係。アートは〈場〉の力に媚びるでもなく、戦うでもなく、いつもそれと共にある。その結びつきが成功した展覧会では、鑑賞者は単なる作品の集合を越えた「強烈な意味」を受け取ることになるだろう。展覧会 Les Papesses はどんな出来事だったのか？

~~~~~

~~~~~

~~~~~

ある作品と出会い、それを鑑賞する。芸術を体験する〈場〉はときに、我々の中に深く刻印される。空間の持てる意味は、表現の解釈をま左右し、それゆえ、ある展覧会に足を運び、その空間・作品・鑑賞行為の相互関係に思いを馳せることは、我々の作品享受の可能性を開くのだ。例えば、美術館やホワイトキューブ、コレクターの邸宅、ハブニングやパフォーマンス、流転する自然環境下、地方のアートイベントでしばしば見られるような産業工場など歴史的建造物を再利用した空間。いずれの場合も、作品が鑑賞者に与える印象は潜在的に異なる。それは、作品を創り手の意図によらず、その意志を超越した何かによって施される恩寵ともいうべきものである。

さて、本来宗教的な場所を会場として用いる試みは、日本なら寺院の利用が挙げられるが、ヨーロッパでは教会や修道院で開催される展覧会がそれである。新たな空間構築を模索する現代アートやメディアアートの領域で頻繁に見られるようになっている。寺院、教会、修道院など、それ自体が強烈に神聖な意味を帯びている空間での展示は、殆どの場合、その場に宿る「サクレ」(sacré, 聖なるもの)の力を畏れ、「神の威を借る」形で展示作品を異化する効果を狙う。寺で展示される作品はそこに置かれるだけでなんとなく厳かなオーラを放つ、と言うふうに。あるいは、その恩恵に与るだけでなく、空間との意味をより熟考する場合すら、それは決してその空間固有の意味を転覆させるまでには至らない。しかし、本記事で紹介する展覧会 Les Papesses（「複数の女教皇ヨハンナ」）は、歴史において明確に政治的・社会的権力の象徴であった巨大なアヴィニョンの修道院という砦を、まるで沈黙のまま平和的に譲渡することを可能にしたのである。

展覧会タイトルの「パベス(Papesse)」とは、歴史上ただ一人存在したとされる女教皇ヨハンナ（在位 855―858）のことである。少女時代、愛人の服を纏ってローマに連れてこられたヨハンナはとても聡明で全ての科目に精通し教鞭をとり、豊かな知性は肩を並べる者がいなくなり、ついには教皇に選出されるが、愛人の子を身籠って大聖堂への移動中の路地で出産してしまう。即座に馬の尻尾に括り付けられ、引きずられて拷問を受けて死亡、その場で葬られた。この出来事が起こった通りや出来事そのもの、女教皇の存在は忌み嫌われ、以来教皇は厳格に男のみに限られ、ヨハンナはその「汚れた」物語から教皇のリストには加えられていない。上記は幾つかの資料に基づくが、伝説とする歴史家も多い。

本展覧会は、このような女教皇ヨハンナの逸話に深く関係している。そしてメイン会場のひとつが教皇庁であることは、芸術表現における女教皇たちが自らを利用し、弾圧し、死に至らせた中世の男性的宗教世界の象徴的場所としての教皇庁をいかに無血開城させることに成功したのかを見守ることによって、初めてその真の意味が明らかになるだろう。さて本展覧会は、カミーユ・クローデル、ルイーズ・ブルジョワ、キキ・スミス、ジャナ・ステラバック、ベルリンド・ドゥ・ブリュイケールの5名の女性アーティストの大規模な展示となった。（註1）

大きな階段「栄光の階段(Escalier d'Honneur)」を登り、教皇庁内部に進む。見上げるとそこには、石造りの冷たい建築に射し込む太陽光が照らすひとつのインスタレーションがある。

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

カミーユ・クローデル(1864―1943)へのオマージュだ。列になって楽しく浮遊する妖精のように見えるのは、カミーユ・クローデルが30年にわたって入院生活を送った精神病院の患者服を模したものである。患者たちは自分を傷つけることを避けるため、しばしば袖口が結ばれて両手の自由が行使できない服を着ていた。(写真1)



写真1 Escalier d'Honneur, Hommage à Camille Claudel, 2013

~~~~~

カミーユ・クローデルがオーギュスト・ロダンの彫刻作品において文字通りその手足を制作し、彼と恋人関係にあったことはよく知られている。内妻があったロダンはカミーユと結婚することはなく、カミーユは後にロダンの子どもを堕胎し、厳格なカトリック家庭で育った彼女は生涯その罪に苦しんだ。天使が光の中を舞うかのような精神病院服のインスタレーションは、罪を負って傷ついた肉体が失われ、全てが浄化されたあとに再び心の平和を取り戻した幸せな少女たちの戯れのようなだ。

ルイーズ・ブルジョワ(1911―2010)は自身の性的なトラウマやオブセッションを反映する作品を生涯表現し続けた作家で、蜘蛛のモチーフや男根のスラブチュア、女体からひりだして来る怪獣のような赤子のイメージを一貫して反復する。彼女にとって女の身体は性交や赤子の出産によって引き裂かれるものである。男性の生殖器や赤子は、したがって、女 の存在を脅かし傷つける暴力的なオブジェとして描き出され、一方壊れた身体は、彼女のつきまぎの人形に見られるようにいつも縫合され、ちぎれながらも全体の形を留める。母体の象徴である蜘蛛は、人間のみならず世界の母体として堂々と君臨する。その下では、ちっぽけな身体は、晩年のドローイングシリーズ（写真2）に見られるようにもはや恐怖におのかず、当たり前のことを当たり前に行っているように見えることができるようになる。



写真2 左) A Man and a Woman, 2008

右) Pregnant Woman, Louise Bourgeois, 2008

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

ジャナ・ステラバックは1955年ブラハ生まれ、髪の毛、パン、肉等多様な素材を利用して身体とアイデンティティを問う表現を続ける。1984～85年に制作されたThe Dressは電流を流すと胴体部分を中心に数本の電熱線が光と熱を発生し、ジリジリと発せられる音はエレガントな見た目と裏腹に肉体が痛めつけられるような感覚を見る者に想起させる。(写真3)1956年に発表された田中敦子の電気服が、田中自身が感電死の危機を背負って電球に抱かれるための服であった一方、ステラバックの電気ドレスは肉体それ自体のメタファーである。I Want You to Feel the Way I do と名付けられたあまりに危険で纏い得ぬ衣服は彼女自身の肉体の延長であるだけでなく、生きる苦しみと喜びを享受する全ての肉体の拡がりなのである。



写真3 I Want You to Feel the Way I do...(The Dress), Jana Sterbak, 1984―85

~~~~~

さて5人の女教皇たちは今日の我々に何を伝えるのか。それは、我々が男でも女でも、詰まる所は肉体なのだ、というシンプルなメッセージだ。それは不可触な純粹観念では有り得ず、老いる運命に置かれた組織であり、発汗し臭いを放つ物体であり、性交によって繁殖する動物であるということだ。身体を取り戻し、そのことを見つめること、子を産むことが身体を引き裂くことであり、処女で出産するマリアは今日存在せず、それは肉の問題であるということを非暴力のうちに教皇庁を占拠しながら声高に宣言すること、彼女らの表現でその空間を深く満たし、それを伝えた素晴らしい展覧会である。

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



バラ人の歩み

2014 年

|              |                                               |      |                                           |
|--------------|-----------------------------------------------|------|-------------------------------------------|
| 4 月 1 日 (火)  | Web マガジン AMeeT にインタビュー記事が掲載される                |      |                                           |
| 4 月 1 日 (火)  | 消費税が 5%から 8%に引き上げ                             |      |                                           |
| 4 月 1 日 (火)  | 東電福島第一原発から 20 キロ圏内の田村市都路地区で、国による初めての避難指示の解除   |      |                                           |
| 4 月 4 日 (金)  | 記者会見直前 no. 001 を 350 部先行納品                    |      |                                           |
| 4 月 4 日 (金)  | PARASOPHIA 第 2 回記者会見にて吉岡バラ集長が『バラ人』発行を発表       |      |                                           |
| 4 月 6 日 (日)  | 京都府知事選挙で現職の山田啓二が 4 選                          |      |                                           |
| 4 月 7 日 (月)  | 18:00-20:00 MT                                | 11 名 | コンテンツ検討                                   |
| 4 月 11 日 (金) | 台湾の立法院を占拠していた学生らの退去により、24 日ぶりに本会議開催           |      |                                           |
| 4 月 16 日 (水) | 済州島に向かった修学旅行生を乗せた 476 人乗りの韓国旅客船が沈没            |      |                                           |
| 4 月 17 日 (木) | 大垣書店に各店舗での毎号設置を交渉、快諾を得る                       |      |                                           |
| 4 月 17 日 (木) | 18:30-21:30 MT                                | 11 名 | コンテンツ検討、判型検討、『ワンダフルライフ』鑑賞                 |
| 4 月 22 日 (火) | 17:00-19:00                                   | 1 名  | no. 001 発送作業                              |
| 4 月 24 日 (木) | 来日中のオバマ米大統領と日米首脳会談「尖閣に安保適用」を明言                |      |                                           |
| 4 月 28 日 (月) | 18:00-20:30 MT                                | 8 名  | 座談会                                       |
| 4 月 30 日 (水) | 読者よりバラ人になる方法の問い合わせあり                          |      |                                           |
| 5 月 15 日 (木) | 19:00-21:30 MT                                | 5 名  | コンテンツ検討                                   |
| 5 月 25 日 (日) | AKB48 握手会傷害事件が発生                              |      |                                           |
| 5 月 27 日 (火) | 18:00-20:00 MT                                | 8 名  | 座談会                                       |
| 5 月 31 日 (土) | PARASOPHIA プロフェッショナルアドバイザーボードメンバーに北野圭介氏が新たに就任 |      |                                           |
| 6 月 4 日 (水)  | 小保方晴子ユニットリーダー、主論文の撤回に同意、「STAP 細胞」論文白紙へ        |      |                                           |
| 6 月 12 日 (木) | サッカーワールドカップブラジル大会が開幕                          |      |                                           |
| 6 月 18 日 (水) | 東京都議会の本会議で女性議員にセクハラ野次                         |      |                                           |
| 6 月 21 日 (土) | ユネスコの世界文化遺産委員会で、富岡製糸場と絹産業遺産群の世界文化遺産登録決定       |      |                                           |
| 6 月 26 日 (木) | 19:00-22:00 MT                                | 7 名  | コンテンツ検討                                   |
| 6 月 29 日 (日) | 新宿駅付近の歩道橋上で男性が焼身自殺を図る                         |      |                                           |
| 7 月 1 日 (火)  | 安倍内閣、集団的自衛権の行使容認、憲法解釈変更を閣議決定                  |      |                                           |
| 7 月 3 日 (木)  | 18:00-20:00 MT                                | 7 名  | コンテンツ検討、編集作業                              |
| 7 月 12 日 (土) | 18:00-20:30 MT                                | 6 名  | コンテンツ検討、編集作業                              |
| 7 月 14 日 (月) | ネット上に性器の 3D データを掲載・頒布した「ろくでなし子」逮捕             |      |                                           |
| 7 月 20 日 (日) | 13:00-15:00 MT                                | 6 名  | 編集作業                                      |
| 7 月 29 日 (火) | 静岡にて、40 キロメートルあおむけで 20 時間海を漂流した男性が生還          |      |                                           |
| 7 月 30 日 (水) | 13:00-15:00 MT                                | 7 名  | KUAD graduates under 30 selected 展、バラ人賞審査 |
| 8 月 1 日 (金)  | ヨコハマトリエンナーレ 2014、開幕                           |      |                                           |
| 8 月 2 日 (土)  | 15:00-17:30 MT                                | 8 名  | 座談会 (no.003 に掲載予定)                        |
| 8 月 2 日 (土)  | 18:00-20:00                                   | 3 名  | KUAD graduates under 30 selected 展、バラ人賞授与 |
| 8 月 5 日 (火)  | 13:30-17:30 全体 MT                             | 2 名  | 校正作業、校了                                   |
| 8 月 8 日 (金)  | 14:00-22:00 学生 MT                             | 1 名  | 最終レイアウト作業、入稿                              |

バラ人 no. 002

2014 年 8 月 8 日 発行

バラ集長：吉岡洋

バラ人達：浅見旬、榎本悠人、上村優、倉部一星、  
古俣皓隆、清水明日香、角千波、高橋奈々、  
根津歩、野海智子、朴星桓、橋本柚香、橋  
本よしの、蓮田真優美、真壁悠、元行ま  
み、山羊昇、安田七海、尹志慧、好光義也、  
渡邊拓也

デザイン：浅見旬

イラスト：市山早紀

発行：京都国際現代芸術祭組織委員会  
ISSN 2188-5435

助成：一般財団法人 ニッシャ印刷文化振興財団

京都国際現代芸術祭組織委員会事務局  
(PARASOPHIA 事務局)  
〒604-8152  
京都市中京区烏丸通蛸薬師下ル手洗水町 645  
flowing KARASUMA 2 階  
TEL：075-257-1453  
FAX：075-257-1454  
MAIL：info@parasophia.jp  
www.parasophia.jp

© 2014 Kyoto International Festival of Contemporary  
Culture Organizing Committee. All rights reserved.



嶋本昭三「平和の証」1999 ～ 撮影：ヤマモトヨシコ

蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト

蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト、始動。

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015では、蔡國強の作品の一部  
を子どもたちがつくり、会期中に発表される作品に参加するプロジェ  
クト「子どもダ・ヴィンチ」を実施します。蔡國強のアシスタントによる  
専門的なトレーニングを受けた制作助手といっしょに、子どもたちが  
身の回りにある材料で自由に作品を制作するワークショップを2014  
年9月から複数回にわたって開催します。

※詳細は公式サイト参照

お問合せ：

京都国際現代芸術祭組織委員会事務局 (PARASOPHIA 事務局)  
TEL: 075-257-1453 FAX: 075-257-1454 E-mail: info@parasophia.jp

PARASOPHIA | 3.7-5.10, 2015 www.parasophia.jp  
京都国際現代芸術祭 2015



photo: Kajitani Yusuke

重要  
的  
不  
在  
飞  
起  
来  
大  
切  
な  
の  
は  
、  
飛  
べ  
る  
と  
い  
う  
こ  
と  
で  
は  
な  
い